

「意志を与えてくださる神」

フィリピの信徒への手紙 2章13～16節

聖学院大学 会計課課長 佐藤嘉一

私の奨励題は「意志を与えてくださる神」とさせていただきます。私の信仰のお証しと共に、神様がこんなにも弱い私に与えてくださった御心についてお話させていただければと思います。

まず私が教会に通うこととなったきっかけからお話いたします。今からおよそ20年前、私が大学生の頃です。きっかけは偶然、手にした三浦綾子さん著書『塩狩峠』『氷点』でした。大学生になったものの将来に対して漠然とした不安の中にいた私にとってこれらの本は衝撃的な印象を与えてくれました。これまで高校、大学と進むべき道は当然というべきか、目の前にある道をただ進めばよかったわけですが、大学に進学してからはその先を誰も教えてはくれません。そんな目標を失った時期に三浦綾子さんの本に出会いました。その本を通じて初めて、「私というちっぽけな存在を超える神様の存在」があるということに気づかされたのです。この神様なら私にとっての道標になるのではないかと思います、たまたま自宅のポストに入っていたチラシを手には教会に行ってみることにしたのです。教会の人たちはとても温かく迎えてくれましたが、通い始めたものの長続きはしませんでした。なぜなら資格試験という新たな目標を見つけたからです。神様はいるのかもしれないけど、努力するのは自分だ、自分次第で変えられる、そう思っていたと思います。しかし努力はしてもなかなか合格できず、結局、就職もせず大学を卒業しアルバイトをしながら受験生活を続けていました。その頃になると日々の勉強自体がマンネリ化していて試験にまったく受かる気がしない、でも両親の期待に応えなければならない。そのようなジレンマの中で悶々とした生活を送っていました。当然ながら良い成績が残せるはずはありませんでした。でも他の道を自ら見出すことができないとき、ふと思いついたのです。大学生の頃に通っていた教会の人たちのことを。そして教会に行けばこの悩みに光をあててくれるのではないかと思います。再び教会に戻り、ほどなく信仰を持つようになりました。失望の中を歩んでいた私にとって聖書の言葉は大きな支えになったからです。ルカによる福音書9章23～24節「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。」この聖書の言葉を通じてこれまでの自分がいかに思い上がった存在であったか、いかに取るに足りない者であるかを知ることになりました。これまで何度も挫折を味わってきた中で、自分でも薄々は気が付いていたこと、それを聖書の神様は私にはっきりと教えてくださいました。それでもいいから、弱い自分でもいいからついて来なさいと。自分の進路さえ見失っていた私にとっては大きな光でした。そして、何もできない自分でも、そんな私でさえも愛してくださる神様に心から感謝し、信じることができるようになったのです。それまでの自分は人より高く、人より上に行くことこそが「とるべき道」であり、それが自分自身の道標でした。う

まくいったときは自分の努力を称え、うまくいかなかったときはまわりのせいにするが多かったと思います。成功することこそが全てであると思っていた自分にとって、聖書は異なるあり方を示してくれました。それからは神様とともに歩む道こそが、私にとっての「とるべき道」に変わりました。このように神様は私に信仰に対する意思を与えてくださったのです。

その後、社会人経験を経て聖学院大学大学院に入学し、大学院を修了してからも職員として聖学院と関わることになりました。そしてほんの数年前、ようやく税理士という資格を取得することができました。もはや自分を誇らしく思うことはありません。むしろ神様に感謝する気持ちと、神様が憐れんでくださり、与えてくださった「私なりの道」が見えた気がしたのです。ここで、そもそも税理士とはどのような職業であるかと申しますと、「税務に関する専門家として、独立した公正な立場において、申告納税制度の理念にそって、納税義務者の信頼にこたえ、納税義務の適正な実現を図ることを使命とすることとされており、業務としては他人の求めに応じ、各種税金の申告・申請、税務書類の作成、税務相談等を行う者」なのですが、簡単に言いますと「報酬をもらって他人の税金の計算をする仕事」です。インターネットの普及などにより昔ほど税理士に頼むような時代ではなくなりつつあり、会計ソフトなどを使って自分でも簡単に確定申告ができるようになってきました。IT技術の発達に伴い、「将来なくなる職業ランキング」というのにも税理士が含まれているという記事もありました。優秀な会計ソフトさえあれば税理士などいらなくなる、そんな時代が来るのかもしれない。しかし、税務申告において人の判断がいらなくなることはないと思っています。それぞれの人の状況に応じて税理士としての判断がなくなることはありません。ただ、優秀な税理士というのは全国にたくさんいます。登録者数は現在7万人を超えています。そして、いくら資格を取ったとしても競争社会という社会の原理はどこにでもあります。そのような中で私は人と同じでなくていいと思っています。私なりの信仰にもとづく働き方があると信じていますし、そう神様が今もこうして導いてくださっているのだと思っています。神様は私に会計という仕事を通じて神様に仕える意志を与えてくださいました。

最後になりますが今日の聖書の個所であるフィリピの手紙について簡単にお話しいたします。フィリピの手紙は投獄されているパウロがフィリピの教会の人々に書き綴った手紙です。パウロはキリストにあって従順であることをフィリピの教会の人たちに伝えていきます。イエス様の謙虚さに倣い従順でいること、それによって、信仰を与えられ行動をおこす力を与えてくれるのだと思います。その上、すべてのことを不平や理屈を言わずに、というのです。

私もこれまでも数々の困難や試練に会ってきました。その点では今も試練の真ただ中にいるといっても過言ではありません。できない自分、弱い自分が嫌になることばかりです。時に弱さもありますが、それでも神様に従いながら試練を乗り越えさせてくれる「意志」をその時々にご与えてくださいました。愚痴や不満を言わないということは、人として避けられないかもしれませんが、そのような誘惑に陥ることなく、むしろ世を照らす星のように輝くため、受け身にならず率先して行動するべきであると、この聖書個所は語っていると思います。世のためにしもべとなったイエス様にならって、これからも歩み続けたいと願っています。

2016年6月30日 聖学院大学 全学礼拝